

防災に関するアンケート調査結果について (追加資料)

1 クロス集計による分析について

調査結果の回答データから、「避難」について分析するため、クロス集計による分析を行った。

2 集計結果について

分析① 今年1月の能登半島地震時の行動についての質問（問4・問5）において、「避難した場所」と「移動手段」に関するクロス集計を実施

※「避難した場所」については、移動手段（自動車と徒歩）の分析を行いたい場所を厳選して記載

	自動車	徒歩	自転車	バイク	その他	
県立大学小浜キャンパス	34	15	1	0	0	※1名無回答
屋外の高台や裏山	13	10	1	0	0	
市等の施設	11	6	0	0	0	※1名無回答

《分析①の考察》

・津波避難に対する住民意識として、避難手段は「徒歩」ではなく「自動車」を選択する方が多かったことを示す結果となっており、県立大学小浜キャンパスにおいても、全体の7割近くが「自動車」を選択している。

分析② 今年1月の能登半島地震時の行動についての質問（問4）において、「避難していない」と回答された方（38名）に関するクロス集計を実施

問7 今年1月1日の地震・津波警報や今回の津波避難訓練を体験し、地震や津波に対する意識や行動は変わりましたか

変わった	32
変わっていない	6

問8 (1) 〈問7〉で「変わった」と回答された方の理由（複数回答可）

①避難場所や避難経路、避難にかかる時間を確認した。または今後確認したい。	20
②災害時における家族との連絡手段など、家族と防災について話すようになった。または今後話したい。	15
③非常用持出袋や備蓄物資を準備し始めた。または今後準備したい。	14
④その他	1

問8 (2) 〈問7〉で「変わっていない」と回答された方の理由（複数回答可）

①日頃から地震や津波の災害に備えている（備蓄物資等を常備している等）。	5
②大きな災害は発生しないと考えている。	1
③災害が発生しても、自分は大丈夫だと考えている。	0
④その他	0

分析③ 「津波注意報」「津波警報」「大津波警報」が発表された時点で、住民はただちに高い場所(屋外、道路、施設など)へ避難しなければならないことについての質問〈問6の(4)〉において、「知らない」と回答された方(29名)に関するクロス集計を実施

問7 今年1月1日の地震・津波警報や今回の津波避難訓練を体験し、地震や津波に対する意識や行動は変わりましたか

変わった	26
変わっていない	3

問8 (1) 〈問7〉で「変わった」と回答された方の理由(複数回答可)

①避難場所や避難経路、避難にかかる時間を確認した。または今後確認したい。	10
②災害時における家族との連絡手段など、家族と防災について話すようになった。または今後話したい。	10
③非常用持出袋や備蓄物資を準備し始めた。または今後準備したい。	9
④その他	1

問8 (2) 〈問7〉で「変わっていない」と回答された方の理由(複数回答可)

①日頃から地震や津波の災害に備えている(備蓄物資等を常備している等)。	2
②大きな災害は発生しないと考えている。	0
③災害が発生しても、自分は大丈夫だと考えている。	0
④その他	0

※1名は無回答

《分析②・分析③からの考察》

・分析②において、今年1月の能登半島地震に伴う津波警報で避難しなかった方のうち、大半が地震や津波に対する意識や行動が「変わった」と回答、また分析③において、津波に関する発表に対する避難行動について「知らない」と回答された方のほぼ全員が、地震や津波に対する意識や行動が「変わった」と回答し、上記の理由(黄色箇所)を回答されていることから、1月1日の津波警報の発表や10月12日の津波避難訓練の実施が、回答者の防災意識や行動を高めるトリガーとなったと考えられる。